

平成24年8月9日

熊本県知事 蒲島郁夫 様
熊本市長 幸山政史 様
阿蘇市長 佐藤義興 様
大津町長 家入 勲 様
菊陽町長 後藤三雄 様
高森町長 草村大成 様
南阿蘇村長 長野敏也 様
西原村長 日置和彦 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康
連絡先 熊本市中央区島崎4丁目5-13
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

白川の河川整備計画の変更を求める要望書

私ども「立野ダムによらない自然と生活を守る会」では、今回の7・12洪水の災害当日以降、白川流域の被災現場や水害痕跡を調査・検証しました。7月17日に「2012年7月12日洪水の検証と今後求められる災害対策」と題したレポートを貴職あてに送付し、7月24日と26日には菊陽町、熊本市、熊本県に要望書を提出し、意見交換を行いました。

現行の白川の河川整備計画では、改修工事のもととなる「河川整備計画」が白川中流域（大津町、菊陽町）で策定されていません。河川整備計画が未策定であるかぎり、白川中流域では河川改修ができません。中流域では河道の掘削、堰の改修などを実施し、河道の流下能力を高めることが不可欠です。（国土交通省「複数の治水対策案の立案及び概略評価による治水対策案の抽出について」（白川流域）治水対策案① 平成23年10月14日をご参照ください。）

今回の洪水で最も大きな被害を受けた阿蘇市では、黒川が至る所で氾濫し、農地や住宅に大きな被害が出ています。河川改修を進めるとともに、黒川遊水地群（手野、小倉、内牧、小野、跡ヶ瀬、無田、車帰など）の整備・充実が必要です。（国土交通省「複数の治水対策案の立案及び概略評価による治水対策案の抽出について」（白川流域）治水対策案① 平成23年10月14日をご参照ください。）

今回の熊本市の白川の氾濫箇所は全て、河川整備計画で定められた河川改修が未完成の箇所ばかりであることは、これまで述べてきたとおりです。ほかにも熊本市では、蓮台寺橋周辺の河道の流下能力が低く、平田・十禅寺地区では堤防上端から40cmまで水位が上がり、危険な状態でした（熊本市消防団副団長・吉本光康氏調べ）。整備計画河道流下能力算定表を見ても、蓮台寺橋（河口より8.6km）の改修後の流下能力（計画高水位）は毎秒1926立方メートルであり、他の区間を大きく下回っています。昨年10月の「立野ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場（第2回）」で国土交通省が提示した「立野ダム代替案」の中には、ことごとく蓮台寺橋周辺（JR豊肥線白川第一橋梁から薄場橋周辺）の「河道の掘削、橋梁や堰の改築」が入っています。しかし、この区間は整備計画自体の流下能力が不十分であるので、この区間の「河道の掘削、橋梁や堰の改築」は、立野ダムの有無にかかわらず整備計画に盛り込むべきです。

現行の白川の河川整備計画には、中流域の整備計画や、黒川流域の洪水を低減する遊水地群の充実、熊本市の蓮台寺橋周辺の河道掘削等は盛り込まれていません。また、立野ダムの洪水を貯める容量は、想定した洪水を調節する分しかありません。今回の7・12豪雨のような想定以上の洪水では立野ダム湖は満水になり、「洪水調節ダム」として機能しなくなります。土砂や火山灰でダムが埋まってしまうことも容易に考えられます。

今後は流域全体で河川改修を進め、黒川の遊水地群を充実させるとともに、土砂災害の要因となっている放置人工林の整備（間伐）や、阿蘇の草原の保全を進めるなど、流域全体を見据えた災害対策を進めていくべきです。立野ダムに頼っている現行の白川の河川整備計画は、早急に改める必要があります。以下2点を要望します。

記

1. 下記3点を盛り込んだ、立野ダムなしの河川整備計画への変更を国土交通省に求めること。
 - (1) 中流域（大津町、菊陽町）の整備計画
 - (2) 黒川遊水地群（手野、小倉、内牧、小野、跡ヶ瀬、無田、車帰など）の整備・充実
 - (3) 熊本市のJR豊肥線白川第一橋梁から薄場橋周辺の河道の掘削、橋梁や堰の改築

2. 「立野ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」で、河道の掘削（治水対策案①）や黒川遊水地群の活用＋河道の掘削（治水対策案⑪）等のダム以外の治水対策を選択すること。

以上